

令和5年度 第3回 在宅医療×介護連携@つちう Labo 参加者アンケート

- 日 時：令和5年10月26日（木）18時30分～20時30分
- 場 所：土浦市消防本部 3階講堂
- テーマ：在宅療養、看取りとは ～やれる事からやってみる～
- 出席者：54名（アンケート回答者数49名／回答率：90.7%）

1. あなたの年齢、職種を教えてください。

【年 齢】

	人数	割合
20代	1	2.0
30代	13	26.5
40代	16	32.7
50代	11	22.4
60代	6	12.2
70代以上	1	2.0
無回答	1	2.0
合計	49	100.0

【職 種】

	人数	割合
介護支援専門員	20	40.8
看護師	6	12.2
薬剤師	5	10.2
介護職	5	10.2
生活相談員	2	4.1
事務職	2	4.1
管理栄養士	2	4.1
社会福祉士	1	2.0
精神保健福祉士	1	2.0
訪問介護	1	2.0
作業療法士	1	2.0
歯科衛生士	1	2.0
その他	2	4.1
合計	49	95.9

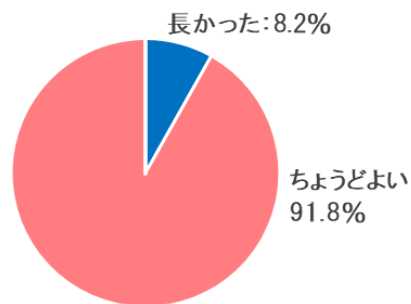
その他：施設長、福祉用具

2. 本日の研修会について

(1) 講演についてお伺いいたします

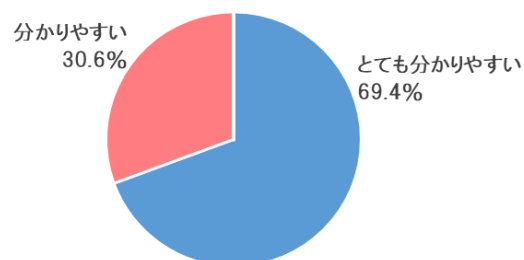
① 講演の時間は、いかがでしたか？

	人数	割合
長かった	4	8.2
ちょうどよい	45	91.8
短かった	0	0.0
無回答	0	0.0
合計	49	100.0



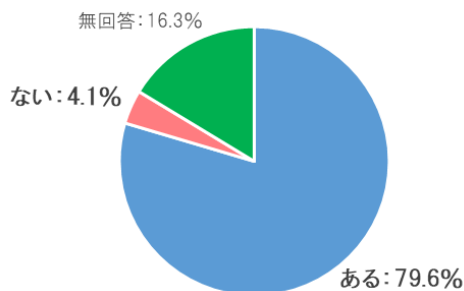
② 講演の内容は、いかがでしたか？

	人数	割合
とてもわかりやすい	34	69.4
わかりやすい	15	30.6
やや難しい	0	0.0
難しい	0	0.0
無回答	0	0.0
合計	49	100.0



③本日の講演内容で、今後取り組もうと思った内容がありますか？

	人数	割合
ある	39	79.6
ない	2	4.1
無回答	8	16.3
合計	49	100.0



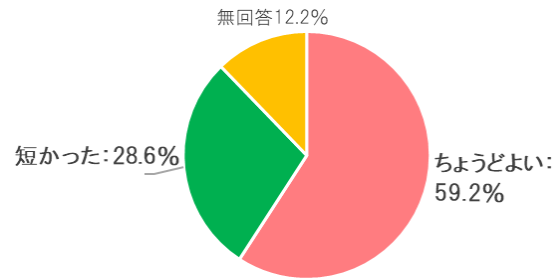
【「ある」と回答した方：具体的な内容】

- ・違う職種の方の仕事を知ろうと思いました。
- ・よりそう気持ちを大切にしようと思う。
- ・患者さんの生活にも目を向けて、薬以外の面でも役に立ちたい。
- ・医療機関にたくさん問い合わせます。
- ・分からないことがあったら一人で抱えず、周りに聞くようにする。
- ・不安の明確化。医療が介護に寄り添っていく。
- ・コミュニケーション。
- ・よりそう。その人が大切にしてきた物、事に寄り添う。
- ・デイの送迎で（看取りではなくギリギリ）阪口先生に教わったことを伝えていきます。
- ・かかりつけ医との連携をより積極的に行っていきたい。
- ・情報共有。丁寧に。
- ・在宅看取りの際、多職種が連携し支援することの大切さ
- ・医療機関との情報共有に難しさを感じていたが、もっと気軽に積極的に情報共有しても良いと感じ、実践したいと思う。
- ・ストレートに利用者様に困っている事、やりたい事を聞く。
- ・医療機関の方と相談するときは、相談する根拠をきちんと説明していこうと思った。
- ・顔の見える関係を作っていきたい
- ・不安に思っていることも含めて、関係者同士でもっと具体的に話をし、連携したい。
- ・あまり気にせず医師や看護師に相談してみようと思いました。
- ・ケアマネとの相談を密に
- ・在宅介護、何を大事に過ごしてきたの？の問い
- ・不安、疑問点は質問してみたいと思います
- ・積極的に医師に聞くようにする
- ・他事業所や他職種の方と小さな事でも情報共有、交換できるようにしたい。
- ・緩和ケアの介入も行なっているため、本人の希望に沿えるよう多職種連携し、支援していきたいと思えます。不安な点等は他のスタッフと相談しながら共有しなければならないと思う。
- ・生活を中心として考え、これまでは安全を重視し出来ていなかった事（外出や活動等）に目を向け、多職種で検討する機会を作ってみる。
- ・在宅の看取りを大切に丁寧にしていきたい。
- ・他職種とも連携を密にとっていきたい。
- ・本人の要望（気持ち）の把握。
- ・やれることことからやってみる。
- ・介護は生活を支える（在宅看取り時）という先生のお言葉は、大変自信になりました。
- ・ターミナルケアの際に「その人らしく」を大切にしたいと思いました。
- ・「何かあったら連絡して。必ず行くから」
- ・現場の人たちが困らないよう色々答えられる準備。現場の人たちを安心させる。
- ・看取り、怖いと思ったことを皆で共有してみたい。
- ・利用者様に「何がしたい」聞いてみる。
- ・「とにかく、わからないことをまず聞いてみる」という気持ちを常々もって業務美取り組んでいこうと思いました。
- ・医師に相談すること。不安を解消すること。
- ・生活のケア。医療だけでなく大切さを感じました。

(2) 意見交換会について、お伺いたします。

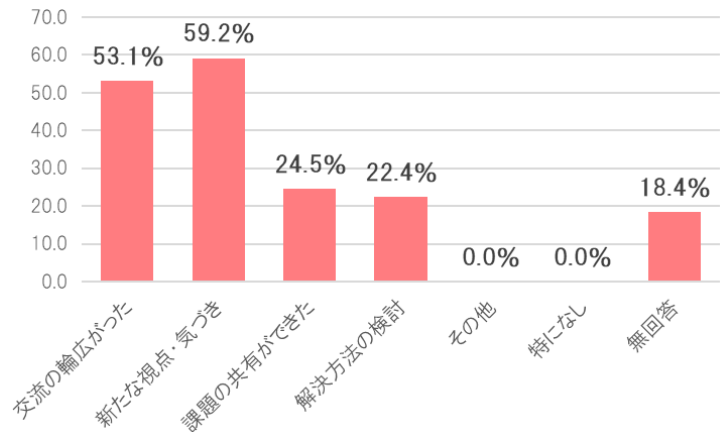
①意見交換会の時間は、いかがでしたか？

	人数	割合
長かった	0	0.0
ちょうどよい	29	59.2
短かった	14	28.6
無回答	6	12.2
合計	49	100.0



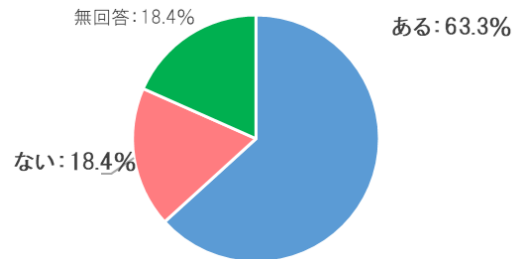
②本日の意見交換会では、どのような成果が得られましたか？

	人数	割合
交流の輪広がった	26	53.1
新たな視点・気づき	29	59.2
課題の共有ができた	12	24.5
解決方法の検討	11	22.4
その他	0	0.0
特になし	0	0.0
無回答	9	18.4



3-① 日頃の業務の中で、在宅療養に携わることはありますか？

	人数	割合
ある	36	73.5
ない	10	20.4
無回答	3	6.1
合計	49	100.0



【円滑な支援のために、実践していること その1】

- ・こまめに連絡を取るようになっている。
- ・ご家族が相談や質問を声に出せるようになっている。
- ・情報共有。
- ・関係者間で情報共有すること。
- ・いつも通りの日常を過してもらえよう。いつも通りのお食事を安心して召し上がれるよう。
- ・本人から、疾患やかかりつけ医から言われたことをこまめに聞き取るようになっている。受診日の確認。
- ・本人のニーズ、家族のニーズの認識。多職種連携。
- ・迅速な医療職との情報共有、連携。
- ・本人、家族の意向を確認。
- ・医師や看護師が利用者宅に来るときに合わせて訪問するようになっている。
- ・本人の意向を知る事。そのために何をするのか考えること。
- ・病棟での看取りとなる事が多く、苦痛なく過ごせるよう看護師等と協働している。
- ・入院窓口の連携。

【円滑な支援のために、実践していること その2】

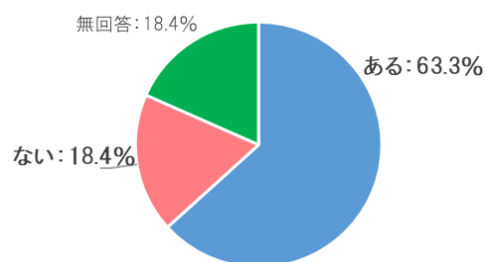
- ・他職種の連携における手段、やり取り。
- ・連携を大切に。看護師、ヘルパー、医師が訪問をしているときになるべく会えるようにしている。
- ・本人の気持ちを聞く。
- ・異常時すぐに家族に連絡をとる。
- ・なるべく些細な事でもケアマネに情報共有するようにしている。
- ・家族、本人の意向、希望に添ったケアをしている。

【課題に感じていること】

- ・在宅医療だと家族の時間が長く見えない部分が多く、気づけていないことがたくさんあるように思う。
- ・デイサービスに看護師がどうかかわっていくか。
- ・歯科の介入の認識があまり広がらない。
- ・医師との連携。
- ・かかりつけ医との連携をどのタイミングで行っていくとよいか。
- ・中には連携を取りづらい医師がいる。ケアマネの話を聞いてくれない。
- ・医療的な知識の不足からご家族への対応、説明できることに限りがあり不安がある。
- ・本人、家族の意向を伝え、共に考えること。
- ・経験が少なく不安が大きいです。知識を付けて行動に移したいと考えています。
- ・医師への質問などのハードルが高い。
- ・本人の意向は、はっきりあるのに、関わる側が「できない」と言ってしまう時の意志統一の方法。
- ・本人、家族の意向に沿った支援を行うことができているか。
- ・利用者の生活に対する意向や希望に対し、医師も含む多職種でアプローチすることができていない。
- ・各職員の利用者に対する状態のとらえ方。
- ・本人、家族に満足していただけるようにしたい。
- ・他職種との連携の不足。
- ・他の職種との連携。
- ・在宅独居の患者に対するケア。

3-② 日頃の業務の中で、看取り支援に携わることはありますか？

	人数	割合
ある	31	63.3
ない	9	18.4
無回答	9	18.4
合計	49	100.0



【円滑な支援のために、実践していること その1】

- ・各関係者との連携を密に行うようにしてる。
- ・介護士が不安になりすぎないように声をかけている。
- ・情報共有。
- ・本人の意向を日ごろからよくうかがうようにしている。
- ・本人のニーズ、家族のニーズの認識。多職種の連携。
- ・迅速な医療職との情報共有、連携。
- ・在宅看取りについての理解が得られるための対応。
- ・医師や看護師が利用者宅に来るときに合わせて訪問するようにしている。
- ・サービス事業者との密な連携。家族の不安軽減。
- ・日々の変化（体調も含む）の共有。

【円滑な支援のために、実践していること その2】

- ・サービス事業所との連携。
- ・家族に面会を促し、状態報告をこまめに。
- ・よりそう。
- ・どんな事でも相談、連絡をする。
- ・本人の希望を聞いて、なるべく本人らしい生活を送れるよう支援。

【課題に感じていること】

- ・看取りは日々変化しているので、見逃さないようにしたい。
- ・「看取りとは」を理解不十分なスタッフへの教育。
- ・連携。
- ・体調の急な変化にサービスを後から追いつくように入れるので、もっと見通しを立てて説明しなくてはと、思っている。
- ・医療的な知識の不足からご家族への対応、説明できることに限りがあり不安がある。
- ・在宅看取りを希望していたのに救急搬送され、心マ等されてしまう事。
- ・薬剤師の関わり方、連携の仕方、情報提供の内容。
- ・本人の意向は、はっきりあるのに、関わる側が「できない」と言ってしまう時の意志統一の方法。
- ・予後の短い方に対する支援、スピードが求められる中での情報共有やアプローチ等。
- ・連携。
- ・各職員の利用者に対する状態のとらえ方。(変化を変化と捉えられない)
- ・不安がある。本人家族に安心してもらえるだろうか。
- ・説明の方法、言い方。
- ・薬剤師は看取りになれていない。
- ・医師、看護師に相談しづらい。
- ・在宅独居の患者の療養。

4 今後、どのようなテーマの研修会や意見交換会を行ってみたいですか？

- ・今回のように生活で活かせる研修会が多くあると良いと思いました。
- ・病院、施設、在宅との連携
- ・災害対策
- ・各職種の交流をメインとした会
- ・セルフネグレクト、ひきこもり
- ・今回のテーマを来年も
- ・地域のインフォーマルサービス、資源について、課題について
- ・様々なケースワーク。介護面、医療面。
- ・介護保険法改定
- ・急変対応
- ・身寄りのない人で医療依存が高い人

5 最後に、お気づきの点や、ご感想などありましたら、自由にご記載ください。

- ・とても良い研修会で参加してよかったです。ありがとうございました。
- ・貴重なお話、ありがとうございました。
- ・ありがとうございました
- ・とても良かったです
- ・すごく温かみのある講演で、共感する部分も多くとても充実した内容でした。ありがとうございました。
- ・在宅で介護が大切だと先生が思ってくれていることがうれしかった。
- ・貴重なお話ありがとうございました。
- ・本当に大変勉強になりました。
- ・在宅を支えるための連携の大切さ